

Ⅲ 調査結果のあらまし

第43回市政に関する世論調査の結果

1. 宇都宮市に対する感じ方について

(1) 宇都宮市の好き・嫌い

「好き」と「どちらかといえば好き」を合わせた【好き（計）】は9割近くとなっている。

(2) 好きな理由

宇都宮市で好きだと思うところを聞いたところ、「自然災害の少なさ」がほぼ6割で最も高く、次いで、「自然環境の豊かさ」、「買い物など日常生活の便利さ」、「慣れ親しんだところ」と続いている。

(3) 嫌いな理由

一方、宇都宮市の嫌いだと思うところを聞いたところ、「街に活気がないところ」が4割を超えて最も高く、次いで、「交通マナーの悪さ」、「電車やバスなどの交通機関の整備が遅れているところ」、「交通渋滞の多さ」と続いている。

2. 広報媒体の活用状況について

(1) 「広報うつのみや」の入手方法

「広報うつのみや」の入手方法について聞いたところ、「新聞折込で自宅に届いている」が8割を超えて最も高くなっている。「手に入れていない」はほぼ1割である。

(1-1) 「広報うつのみや」の閲読状況

「広報うつのみや」を入手していると答えた人に、どの程度読んでいるか聞いたところ、「くわしく読む」と「ざっと読む」と「関心のあるところだけを読む」を合わせた【読む（計）】は9割近くとなっている。

一方、「あまり読まない」と「まったく読まない」を合わせた【読まない（計）】は1割を超えている。

(1-2) 「広報うつのみや」で読んでいる記事

「広報うつのみや」を読んでいると答えた人に、主にどの記事を読んでいるか聞いたところ、「市政情報（健康、文化、教養、税、雇用情報など）」が7割近くで最も高く、次いで、「宇都宮美術館、市文化会館、ろまんちっく村、図書館など市の施設の催し物情報」、「特集（市の重点事業）」、「相談窓口（法律・行政・健康など各種相談のお知らせ）」、「情報カレンダー（市イベントのカレンダー）」と続いている。

(1-3) 「広報うつのみや」を入手していない理由

「広報うつのみや」を入手していないと答えた人に、入手していない理由を聞いたところ、「届いていないため」が5割を超えて最も高くなっている。

(2) 「広報うつのみや」で充実してほしい情報

今後、「広報うつのみや」で取り上げてほしい、または充実してほしい情報を聞いたところ、「身近な暮らしに関すること」が3割台半ばで最も高く、次いで、「保健・医療など健康に関すること」、「市の各種制度や事務手続きの説明」、「市の行事や催しのお知らせ」と続いている。

(3) 市政情報の各広報媒体の視聴状況

「広報うつのみや」以外の9つの広告媒体について、「よく見る（聞く）」と「ときどき見る（聞く）」を合わせた【見た（聞いた）ことがある（計）】は、“インターネット（宇都宮市ホームページ）”がほぼ3割で最も高く、次いで、“「ほっとHOTみや」”，“馬場町交差点にある電光表示板”，“JR宇都宮駅西口，鹿沼インター通り，平成通り，宇都宮環状線にある広報塔”と続いている。

（4）市政情報を得るために利用したい手段

今後，市政に関する情報をどのような手段で知りたいか聞いたところ，「広報うつのみや」が7割台半ばで最も高く，次いで，「新聞」，「テレビ」，「ホームページ」，「タウン誌」と続いている。

3. 市政情報の入手環境

（1）市政情報の入手方法

市政情報が必要となったときの入手方法を聞いたところ，「広報紙「広報うつのみや」で調べている」が6割で最も高く，次いで，「電話で問い合わせしている」，「市公式ホームページで調べている」と続いている。

（2）インターネットの環境・利用状況

生活の中での，インターネットの環境や利用状況を聞いたところ，「インターネットを利用できる環境が整っている また，利用もしている」と「インターネットを利用できる環境が整っている しかし，利用はしていない」を合わせた【整っている（計）】は6割台半ばとなっている。

一方，「インターネットを利用できる環境が整っていない しかし，今後，利用を考えている」と「インターネットを利用できる環境が整っていない また，今後，利用する予定もない」を合わせた【整っていない（計）】は3割近くとなっている。

（2-1）インターネットの利用環境

インターネットを利用できる環境が整っていると答えた人に，どのような状況か聞いたところ，「パソコン」が9割台半ばで最も高くなっている。次いで，「携帯電話」と続いている。

（2-2）市役所への問い合わせ可能時間帯

インターネットを利用できる環境が整っていないと答えた人に，電話などで市役所に問い合わせをする場合，問い合わせが可能な時間帯は，どの程度必要であるか聞いたところ，「月曜日～金曜日の午前8時半～午後7時」が3割台半ばで最も高く，次いで，「年間を通して（土・日曜日・祝祭日を含む）午前8時半～午後7時」，「年間を通して（土・日曜日・祝祭日を含む）午前8時半～午後9時」，「年中無休・24時間」と続いている。

4. スポーツについて

（1）子どもの体力向上のための取組

子どもの体力を向上させるためには，どのようなことが必要であると思うか聞いたところ，「安心して遊べる場所の確保」が6割を超えて最も高く，次いで，「体育の授業や部活動の充実」と続いている。

（2）スポーツの開始・継続のための取組

「スポーツを始める、または続けるためには、どのようなことが必要であると思うか聞いたところ、「身近なスポーツ施設の充実」がほぼ6割で最も高く、次いで、「スポーツができる時間の確保」、「スポーツをする仲間」と続いている。

(3) 施設の整備

限られた予算の中で、今後、どのように施設を整備していくことが望ましいと思うか聞いたところ、「利用者数の少ない施設の統廃合を進めるとともに、プロスポーツの会場などの主要な施設の機能向上を図る」がほぼ3割で最も高く、次いで、「現在の施設を計画的に改修するとともに、新しい施設を整備する」、「現在の施設を計画的に改修する」と続いている。

(4) スポーツ振興における行政への期待

スポーツをさらに振興させるために、あなたが行政に期待することを聞いたところ、「年齢にあったスポーツの普及」と「スポーツ施設の整備」が4割を超えて高く、「地域のスポーツクラブやサークルの支援」、「各種スポーツ行事や大会・教室などの開催」と続いている。

5. 男女共同参画について

(1) 家庭生活での男女の地位の平等感

現在、家庭生活で男女の地位は平等になっていると思うか聞いたところ、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた【男性優遇(計)】はほぼ5割となっている。「平等になっている」は4割近くで、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と「女性の方が非常に優遇されている」を合わせた【女性優遇(計)】は1割に満たない。

(2) 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の認知度

「仕事と生活の調和」すなわち「ワーク・ライフ・バランス」という言葉について、どの程度知っているか聞いたところ、「言葉も内容も知っている」は2割近くとなっている。

一方、「言葉も内容も知らない」は3割近くとなっている。

(3) 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)に関する理想と現実

生活の中で、仕事、家庭生活(家族と過ごすこと、家事、育児など)、地域・個人の生活(ボランティア活動、社会参加活動、趣味、娯楽など)のうち、何を優先するかについて、【理想】と【現実】の2つに分けて聞いたところ、【理想】は、「仕事と家庭生活と地域・個人の生活のすべて」が4割近くで最も高く、次いで、「仕事と家庭生活」、「家庭生活と地域・個人の生活」、「家庭生活」と続いている。【現実】は、「仕事」が2割台半ばで最も高く、次いで、「仕事と家庭生活」と続いている。

(4) 配偶者からの暴力を受けた経験

過去2年間に、夫や妻、恋人から暴力を受けたことがあるか聞いたところ、「何度もあった」と「1、2度あった」の2つを合わせた【経験あり(計)】の割合は、「精神的な嫌がらせや恐怖を感じるような脅迫を受けた」が最も高く、次いで、「身体に対する暴力を受けた」、「性的な行為を強要された」と続いている。

6. 地球の温暖化防止につながる取組について

(1) 現在取り組んでいる項目・今後取り組みたい項目

地球の温暖化防止につながる、現在、取り組んでいる項目と今後、取り組みたいと思う項目の2つに分けて聞いたところ、【現在】は、「シャンプーや洗剤などは、詰め替え可能な商品を購入する」が8割台半ばで最も高く、次いで、「照明をこまめに消す、冷暖房の設定温度を適正にするなど節電をする」、「浴室や洗面所で水を出しっぱなしにしないなど節水をする」、「ごみを減らすため、資源物のリサイクルに積極的に努める」と続いている。【今後】は、「エアコンを緑色の省エネマークのあるものや消費電力の小さいものにする」と「冷蔵庫を緑色の省エネマークのあるものや消費電力の小さいものにする」がほぼ5割で高く、次いで、「マイカーを低公害車（ハイブリッドカー、電気自動車、LPG車、天然ガス車）にする」、「住宅用太陽光発電システムを設置する」、「テレビを緑色の省エネマークのあるものや消費電力の小さいものにする」と続いている。

7. 住宅用火災警報器の設置義務について

(1) 住宅用火災警報器の設置義務の認知度

すべての住宅等に住宅用火災警報器の設置が義務づけられたことを知っているか聞いたところ、「知っている」はほぼ9割となっている。

(2) 住宅用火災警報器の設置状況

現在、自宅に住宅用火災警報器を設置しているか聞いたところ、「設置している」は5割台半ばとなっている。

(2-1) 設置していない理由

自宅に住宅用火災警報器を「設置していない」と答えた人に、その理由を聞いたところ、「義務化の内容などがわからない」がほぼ4割、「住宅用火災警報器の購入場所がわからない」が1割を超えている。

8. まちづくり活動について

(1) 市民活動参加の意欲

市民活動に参加したいと思うか聞いたところ、「現在、参加している」と「今は参加していないが、今後ぜひ活動したい」と「今は参加していないが、今後機会があれば参加したい」の3つを合わせた【参加（計）】は5割を超えている。

一方、「参加したいと思わない」は2割台半ばとなっている。

(1-1) 参加している・参加したい活動

市民活動に参加している、参加したいと答えた人にどのような活動に参加しているか、または参加したいか聞いたところ、「地域活動以外の活動（地縁にとらわれない目的別のボランティア活動など）」が5割を超えており、「地域活動（自治会などの地縁団体の活動）」が4割台半ばとなっている。

(2) 市民活動への参加・活性化のための取組

市民活動に参加する場合、または市民活動を活性化させるためには、どのようなことが整えばよいと思うか聞いたところ、「身近に活動場所があること」が5割台半ばで最も高く、次いで「活動や団体の情報が簡単に手に入ること」、「活動に必要な知識や技術を身につける研修などがあること」と続いている。

9. 特別支援教育について

(1) 「発達障がい」の認知度

「発達障がい」について知っているか聞いたところ、「内容まで知っている」は3割近くとなっている。一方、「聞いたこともなく、内容もわからない」はほぼ1割となっている。

(2) 「特別支援教育」の認知度

「特別支援教育」について知っているか聞いたところ、「内容まで知っている」は2割近くとなっている。一方、「聞いたこともなく、内容もわからない」は2割を超えている。

10. もったいない運動について

(1) 「もったいない運動」の認知度

宇都宮市で取り組んでいる「もったいない運動」について知っているか聞いたところ、「内容を知っており、実践している」と「内容を知っているが、実践はしていない」を合わせた【知っている(計)】は6割近くとなっている。一方「知らない」は4割を超えている。

(1-1) 「もったいない運動」の認知経路

「もったいない運動」を知っていると答えた人に何で知ったか聞いたところ、「広報うつのみや」が6割台半ばで最も高く、次いで、「自治会の回覧」、「新聞・雑誌など」と続いている。

宇都宮市の取組についての意識調査の結果

1. 現在の宇都宮市について、どのように感じていますか。

現在の宇都宮市について、どのように感じているか、基本施策25本について【満足度】を聞いたところ、生活環境についての「上下水道サービスの質を高める」、「良好な水と緑の環境を創出する」が6割を超えている。次いで、健康・福祉・安心についての「保健・医療サービスの質を高める」、生活環境についての「快適な住環境を創出する」と続く。

平成21年度と比較すると、「脱温暖化・循環型の環境にやさしい社会を形成する」が10.1ポイントの増加となっており、「快適な住環境を創出する」で9.2ポイントの減少となっている。

2. 施策の重要度と満足度

(1) 重要だと思う施策

取組の重要度を聞いたところ、【重要である(計)】の割合が高いのは『日常生活の安心感を高める』に多く、「防犯対策の充実」、「消防力・救急救助体制の充実」、「交通安全対策の充実」、「健康危機管理対策の強化」、「食品の安全性の向上」、「危機管理体制・危機対応能力の充実」でいずれも8割台となっている。また、『上下水道サービスの質を高める』の「水道水の安心給水の推進」、「下水の適正処理の推進」と、『保健・医療サービスの質を高める』の「地域医療体制の充実」で8割台となっている。

(2) 満足している施策

満足度について聞いたところ、【満足度(計)】の割合が高い取組は、『上下水道サービスの質を高める』の「水道水の安心給水の推進」と「下水の適正処理の推進」で5割を超えている。こ

の他では、『日常生活の安心感を高める』の「消防力・救急救助体制の充実」,「防犯対策の充実」,
「交通安全対策の充実」,「健康危機管理対策の強化」,『脱温暖化・循環型の環境にやさしい社会を形成する』の「ごみの発生抑制, 減量化, 資源化の推進（3Rの推進）」が4割を超えて続いている。

一方、『商工業の活力を高める』の「安定した経営基盤の確立」,「中小企業の経営・技術革新の促進」,「商店街の魅力向上」がほぼ1割となっている。